

2010年(平成22年)10月30日 土曜日

「メタボ検診」利用者低迷

徳島大学病院

メタボリック症候群を対象に、徳島大学病院が2008年3月から実施している「メタボ検診」の利用者が低迷している。保険が適用されず検診料が高額なためだが、メタボ検診が受けられるのは、県内の公的病院では同病院だけ。同病院は「糖尿病死亡率が全国最悪の本県にとって検診は欠かせない」と、積極的な利用を呼び掛けている。



栗飯原賢一医師

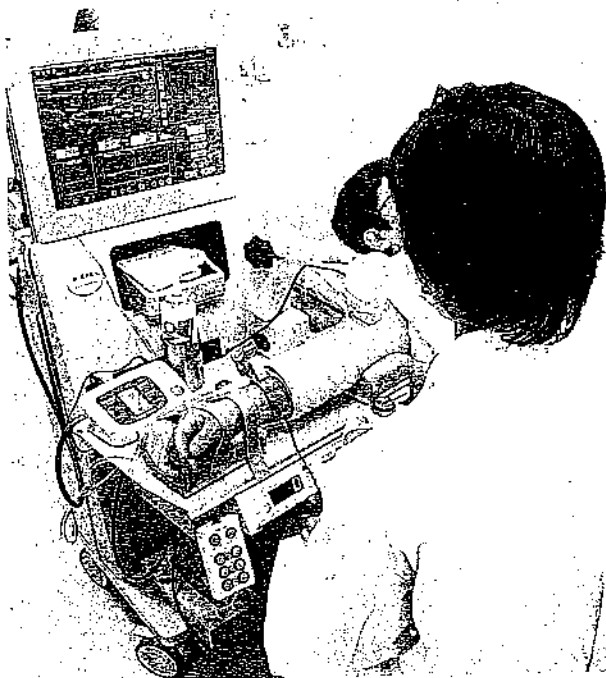
メタボ検診は、動脈硬化や脂質異常といったメタボ予防や、糖尿病の予防が目的。がんの発見などを主な目的とする人間ドックとは違い、代謝(糖尿病と高脂血症などの脂質異常症)と、血管系の疾患に重点を置いた検査が特長だ。

血管壁の厚さを測る頸動脈エコー、血管の硬さやつまりの有無を調べる脳波伝播速度検査など、血液・尿検査を含めて8種類の検査を行う。県内の公的病院で唯一、腕を締めた状態から緩めた後の血管の広がり具合を超音波で調べ、早期の動脈硬化を発見することが

できる血管内皮機能(FMD)検査も可能。

医師・看護師らによる検査内容の説明と、メタボ予防の生活指導に計2時間半をかけるなど、患者への説明や指導にも力を入れている。受診者は、塩分や脂質を控えめにしたヘルスランチ(650円)を食べ、管理栄養士の食事指導を受け

生活習慣病 早期発見に不可欠



る。詳しい検査結果に、医師のコメントを付けて1カ月以内に自宅に郵送される仕組み。

検診は金曜日のみで、午前8時半から午後3時まで半日かかるため1日3人が上限。それでも受診者の満足度は高く、2年前に続いて夫婦で再検診に来たという徳島市内の女性(62)は「7年前から糖尿病を患っており、合併症が怖いので受けている。細かく調べて

積極的な受診呼び掛け

くれるし、食事指導もしてもらえるので安心できる」と話す。

しかし、検診スタート後は月平均10・4人だった受診者が、昨年は2・9人に減少し、今年は1・2人(1・9月)にとどまっている。

受診者を年齢別にみると、男性は40代が12%、50代24%、60代38%で、70代は22%。女性は40代が6%、50代14%、60代50%で、70代が29%と、男女とも60代が最多。検診は動脈硬化などを早期に予防できる40・60歳に照準を当てているが、既に何らかの病気を抱える高齢者が多いのが実情だ。

検診は4コースあり、費用は基本コースが4万8300円(昼食付き)。糖尿病の有無や、心臓の動脈硬化などを調べる心エコー検査を希望すれば4万8300・5万1450円が必ず。国民健康保険の人間ドックが1万円前後(自治体、検査内容で変動)なの比べて、高額になっている。

検診を担当する内分泌・代謝内科の栗飯原賢一医師は「肥満などが原因で起こる糖尿病を前段階で発見できる上、外来診察と違い、受診者としてじっくり話をしながら生活指導ができる。自費診療で高額だが、本格的な生活習慣病が始まる前の40・60歳の人は年1回程度、メタボ検診で詳しく調べてほしい」と呼び掛けている。

問い合わせは、平日午前9時から午後4時に同病院地域医療連携センター(電話088(633)9106)。

超音波で動脈硬化がないかを調べる血管内皮機能検査 徳島大学病院